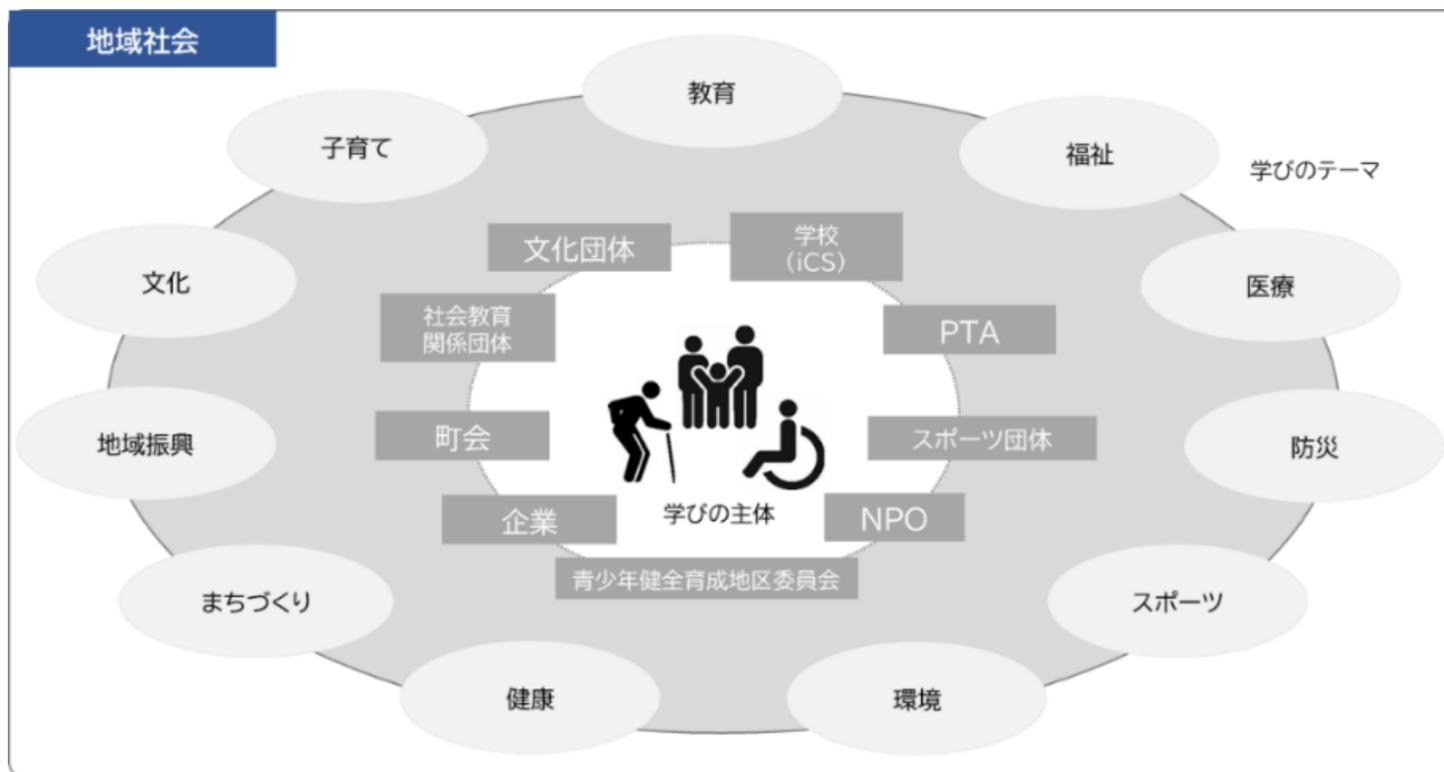


多様な学びの実現について



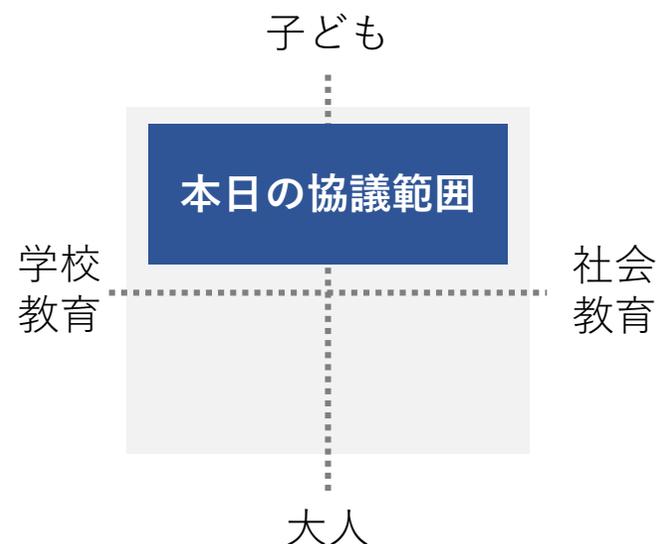
テーマ設定理由

- 学校に通う子どもがいる一方で、不登校や長期欠席の子ども、障がいのある子ども、日本語を母語としない子どもなど、一人ひとりの状況は実に多様である。また、個の多様性に明確な境界線はなく、グラデーションのように連続的に存在している。
- これまでの教育は、全員一斉授業のような画一的なアプローチを通じて「平等」を重視してきた。しかし、この方法では個々の学習ニーズに対応できず、結果として一部の子どもたちが取り残されてしまう可能性がある。これからの教育では、「公平」の視点を取り入れ、一人ひとりの状況に合わせた学びを保障する施策展開が求められる。
- この実現に向けて、重要なキーワードが「多様な学び」である。従来の学校教育を核としつつ、適応が困難な子どもの学びを保障するため、学校内外で複数の学習機会を提供し、子どもが自らの状況に合わせて選択し、決定していく環境を構築することが重要である。
- 「多様な学び」を実現するためには、学校教育と社会教育の枠を超えた教育が必要である。さらに、子どもを中心に据え、多様な主体が協力して教育に関わる体制を構築することが重要である。
- このテーマについてより深い議論を行い、実効性のある教育ビジョンを策定するため、皆様にご協議いただきたい。協議の際には、それぞれの立場から、現場の実情や課題、考えられる具体的な方策等についてのご見解をお聞かせいただきたい。

ご協議いただく前に

多様な学びについて

- 多様な学びは、学ぶ内容、方法、場所の三つの観点から整理。
- 学ぶ内容の多様化
 - 学校では学習指導要領に基づく体系的な学びが展開される一方、現代社会が直面する複雑な課題に対応するためには、より幅広い知識とスキルの習得が不可欠。
 - 科学技術の革新、グローバル化による異文化理解、環境問題への対応、実践的な金融リテラシー、豊かな感性を育む芸術など、多様な分野への探究は、子どもから大人まですべての区民が社会の変化に柔軟に対応し、新たな価値を創造するための基盤となる。
 - こうした学びが、一人ひとりの可能性を広げ、社会に挑む力をはぐくむ。
- 学ぶ方法の多様化
 - 区民一人ひとりの学習スタイルや理解度に合わせた教育を提供するためには、グループワークや探究型の学習、オンライン学習、体験学習、個別指導など、様々な方法を組み合わせることが必要。
 - 主体的な学びを促進し、理解を深めることができる。学びの方法が多様化することで、誰もが自身のペースで学ぶことが可能になる。
- 学ぶ場の多様化
 - 幅広い経験と出会いを提供するためには、従来の学びの場に加えて、児童生徒であれば、教育支援センターやフリースクール、広く区民も含めれば、公共施設や企業の施設、公園、オンライン上の仮想空間など、様々な場で学ぶ環境を整備することが重要。
 - 子どもから大人まで、多様な環境とともに社会を創る一員として教え学び合い、多角的な視点を持つことができる。



多様な学びは、生涯学習にもつながる広義の意味で捉えている。

学校について

- 学校とは、すべての子どもの学ぶ権利を保障し、多様な背景を持つ子どもが集まり、教員の伴走のもと、体系的・継続的に学ぶ場所。ここでは、平等な教育機会が提供され、異なる価値観を持つ他者と共に生きることを学ぶ共同生活を送る中で、個々の学びが深められると同時に、互いの違いを尊重し合う心をはぐくむ。この多様性に富んだ環境は、他では得難い貴重な学習機会を創出し、個人の学びでは得られない新たな気づきや体験を可能にする役割を果たす。
- また、学校は人と安全・安心につながることができる居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康を保障する福祉的側面をもっている。
- さらに、学校は、地域コミュニティの中核として機能も持っている。特に i C S はこの役割を一層強化している。地域住民が学校運営に参画し、世代を超えた学びと交流の場となり、学校と地域が一体となった教育環境を構築している。

検討1：全ての子どもの学びの保障

(1) 「子どもは学校で学習するもの」という価値観から、学ぶ場所を選ぶ、という価値観へ

【委員意見】

- フリースクールに通う家庭は、子どもも、保護者も小学校、中学校を第一に考えている。学校ありきで、その学校の周辺として、学びの多様化学校、学校以外の場、フリースクールが学校の外側を回っているイメージである。
- 社会教育の立場では、学校が聖域という認識がある。

(2) 学校以外の学びの場（フリースクール等）と学校の連携

【委員意見】

- 子どもが学校に行けない時に、学校がフリースクールを紹介してくれるかという点、そういうこともない。そのため、親が必死に探して見つけたフリースクールに行く現状がある。生徒が学校にいけなくなった時に、「フリースクールもあるよ」「オンライン上の学びもあるよ」「適応指導教室もあるよ」みたいな感じにはなっていない。学校から色々な連携をしていただきたいため、そういうイメージのものを作ることにはできないだろうか。
- オンラインで授業に入っても欠席扱いになってしまう状況があると聞くため、そういう部分が出席扱いになるとよい。また、不登校、長期欠席の人の、受験先が狭められないような政策ができればよい。
- フリースクールには部活だけは行ける子がいる。しかしながら、学校によっては、6限まで出てない人は、部活には出られない学校は少なくない。部活をきっかけに学校生活に復帰する生徒にとっては、きついところがある。子どもにとって何がベストかを議論されるべきである。

検討2：学校教育・社会教育の垣根を超えた教育

(1) 学校教育と社会教育の連携

【委員意見】

- 社会教育施設が不登校等について距離感をもっと縮めてもいいのではないか。社会教育と学校教育は、このテーマで関わる重なり合うところがあってもいいのではないか、密になってもいいのではないか。
- 不登校児童生徒のネットワークへの繋がり方も重要な論点。社会教育や学校教育の従来型の考え方と現状のずれを認識し、次世代を見据えた新たな教育のイメージ図を描く必要がある。

(2) 子どもをまんなかに据えた大人の連携

【委員意見】

- 地域で子どもを育てることを自分事化できると地域連携も一層進むだろう。
- 子どもは地域に生きるため、学校は地域社会から離れてはいけない。子どもを取り巻く全ての人たちが、子どもを育てる当事者だという意識を持って、子どもと接してほしいし、直接でも、間接でも子どもたちを育てる一義的な責任は、自分たちなのだという気持ちを持っていくことで、自分に何ができるのかを考えることができるのではないか。
- 子どもと大人の区分けも再考すべきだ。子どもは単に支援される存在ではなく、地域社会で役割を持ち、大人と共に課題解決に取り組める。この相互作用を通じて、子どもも大人も成長していく。2035年に向けたビジョンには、この柔軟な考え方を盛り込むべきだ。

【参考】個別支援が必要な子どもへの対応

【委員意見】

不登校

- 最近の不登校児童生徒は、移動教室や社会科見学等には参加し、外との繋がりを完全にシャットダウンはしない状況がある。不登校の原因はあったものの次第に曖昧になり、学校に行く理由があるかもわからないこともある。どこに原因があるかより、これから本人がどうしていきたいか、どういう場所であれば自分らしくいられるのかを支援し、支援する場や人が複数あれば、子どもはどこかに居場所を見つけ、次のステージにいけるのではないか。
- 今の不登校傾向の子は、担任には笑顔で接し、友達とも明るく遊ぶ様子が見られる。学校の画一的な一斉授業が苦しく、そういうことに距離感を感じている子どもが、不登校までとはいかなくても、保健室に行く機会が多いといった状況は増えているように感じる。
- 無理やり学校に来させられている子や、毎日学校に来ている子の中で、学校が終わっても習い事で忙しくどこか調子悪い、特にやることもなくて元気がないといった、不登校未満で登校日数は特に問題のない子が、非常に増えていることを危惧している。
- この子たちの学びをどうするかも考えなければいけないため、「不登校児童生徒」という言葉がよいかどうかは考えていただきたい。

長期欠席

- 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」では、不登校児童生徒から病気を外しているが、実際には起立性調節障害、パニック障害、対人恐怖症といった病気を理由とした長期欠席の子がかなりいる。⁷

ギフテッド

- 今の学校で教えなくてはならない内容だと、そこからはみ出たい子、特異な才能を持つ子は一定数いる。進んでいる子への対応を習熟度別クラス等でこれから考えなくてはならない。
- 特異な才能を伸ばすようなフリースクールも少しは出てきているが、数は少なく、金額も高い。不登校のイメージとして、ギフテッド系の不登校児童生徒が結構いるのではないかと思われがちだが、実際、フリースクールに来る子のうち数%である。そのため、私たちもギフテッドの子が来ると対応に苦慮し、それは多くのフリースクールも同じだろう。現状、ギフテッドの子は、進学塾、予備校みたいな場所で、偏差値を伸ばすような環境にはないと思う。
- ギフテッドの子を不登校に加えることによって、一層不登校の言葉自体もどのように捉えていくかという議論が必要になるだろう。
- 学校の立場からすると、特異な才能をもつ子は、不登校対応と非常に親和性を持って対応するが、それがうまくいかない一つの要因かもしれない。